

# 経尿道的前立腺切除術(TUR-P)を受けられる患者様へ

秋田大学医学部 泌尿器科

## 手術と術後経過

- 全身麻酔もしくは背中からの下半身麻酔(脊椎麻酔または硬膜外麻酔)で手術を行います。
- 尿道から専用内視鏡をいれて前立腺の中身を切除します。
- 手術時間は30~120分程度です(前立腺の大きさによって異なります)。
- 手術当日から点滴を開始します。飲水と食事が十分にできると主治医が判断できた時点で終了となります(多くの場合 2~3 日です)。術後感染予防のため、手術当日に抗生剤の点滴を行います。発熱など尿路感染症が疑われる際には、抗生剤の点滴や内服を続ける場合があります。
- 手術終了後は尿道にカテーテル(尿を出す管)を入れたまま帰ってきます。カテーテルは、血尿の程度をみて術後2日以降(2~7日)に抜去します。
- 食事は多くの場合は翌朝になります。
- 手術翌日より歩行可能です。

## 手術の合併症

- 1) 出血:血尿はほぼすべての方にみられますが、程度が強い場合は輸血や再手術が必要になることがあります。退院後1ヶ月くらい再出血の可能性があります。その際には再入院が必要な場合があります。
- 2) 尿道の違和感:尿道にカテーテルが入っているため、多くの方は違和感、不快感がみられます。
- 3) 頭痛、下肢の違和感:麻酔の影響です。多くの場合自然に軽快します。
- 4) 被膜または静脈洞穿孔:血液中のナトリウム濃度が下がり血圧低下、嘔気、意識障害など水中毒と呼ばれる症状が出る場合があります。
- 5) 感染症:尿路感染症、精路感染症などにより、術後、発熱、排尿痛、陰囊内容の疼痛などが生じることがあります。
- 6) 排尿困難(出にくい)、排尿痛、尿失禁(尿漏れ):カテーテルを抜去してから、数日から数週間持続することがあります。ほとんどの場合、術後1週間程度でよくなります。
- 7) 尿道狭窄:尿道の出口が狭くなりやすく、術後、尿の出具合がわるくなる場合があります。
- 8) 逆行性射精:射精時に精液が膀胱内に出てしまい、尿道からでなくなります。
- 9) 勃起障害:手術を受けた人の20~30%が勃起障害を起こすといわれています。
- 10) 膀胱頸部硬化症:本手術後膀胱頸部が次第に硬くなり、狭窄状態となることが稀にあります。
- 11) その他:手術時、術後に予期せぬ合併症(肺梗塞、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血など)が生じる可能性があります(このような合併症は極めてまれですが生命に関わる場合があります)。

年 月 日

上記について説明を行いました。 氏名

上記について説明を受けました。 氏名